

兵庫県における鳥類の分布と変遷

協坂 英弥・奥野 俊博・下土居知子
(日本野鳥の会 兵庫県支部)

はじめに

地域に生息する鳥類は、その地の生物多様性を示す環境指標となることはよく知られている。また鳥類の生息分布の過去と現在を把握・比較することは、地域の健全な生態系の保全・再生の施策推進に役立つと考えられる。これまでに兵庫県ではいくつかの鳥類目録などの報告書が発行されてきたが、いずれも春秋の渡り時期の観察記録が丹念に収録されており、鳥類にとって重要な繁殖期と越冬期に限られた生息分布図を示したものは作成されていない。この両期の生息分布図の作成は、兵庫県における自然環境の生物多様性の現状を記録する貴重な資料になると思われる。これを踏まえて、今回、全県的な生息情報の調査をおこない、「自然環境モノグラフNo.2・兵庫県における鳥類の分布と変遷」としてまとめた(図1)。

本モノグラフは官民一体となって兵庫県内の確実な鳥類の分布情報を集約して種ごとに地図化したもので、全国に先駆けて兵庫県立人と自然の博物館と日本野鳥の会兵庫県支部が共同研究として取り組んだことは大変意義深い。生物多様性の指標となる鳥類の過去(1994年以前)と現在(1995年以降)の生息分布(繁殖期・越冬期)を整理・把握することにより、自然環境の生物多様性の現状を記録することを意図している。ここでは、本モノグラフから要点と代表的な種を抜粋して紹介することにする。



図1 自然環境モノグラフNo.2
兵庫県における鳥類の分布と変遷

対象種

対象としたのは、兵庫県内で留鳥、夏鳥、冬鳥、外来種に区分される計200種で、旅鳥と迷鳥は除外した。これらのうち繁殖期と越冬期に限った情報のみを抽出し、渡り期の情報は省くように努めた。この際、基本的な定義として、留鳥は5～7月と12～3月、夏鳥は5～7月、冬鳥は12～2月としたが、必ずしも繁殖期がこれに当てはまらない種については補正を加えた。例えばアオサギは4～7月、イヌワシは3～6月、ハチクマは6～8月、カワガラスは2～5月を繁殖期とした。

情報源と情報数

情報源はアンケート調査の記録、採鳥会記録、地域の野鳥の会の資料(ニューズレター、会報)、既存文献(「河川水辺の国勢調査」、「兵庫の鳥」、「兵庫県の鳥類Ⅰ・Ⅱ」)などで、情報数は約44,000件にのぼった。また地点数は過去が925地点、現在が959地点であった(図2)。

地図化に際しては、まず収集された情報をGet location mappleというプログラムを用いて、緯度・経度といった位置情報を取得した。次にこれらのデータからArc View GIS ver 3.1というソフトを用いて必要な情報を抽出し、分布図として示した。

情報の分布は県内一様とはならず情報の偏在が見られ、特に県中央や西部の情報が乏しくなる傾向があった。これはバードウォッチャーの記録の限界として、1) 市街地など鳥が少ない場所の記録が得られない、2) バードウォッチャーの分布が反映される、3) 「いる」というデータは得やすいが「いない」というデータは得にくい、4) 鳥が少ない場所には足が遠退く、5) ハシブトガラスやスズメ・ドバトなどの普通種を記録しない、などといった要因が含まれているせいだと考えられる。

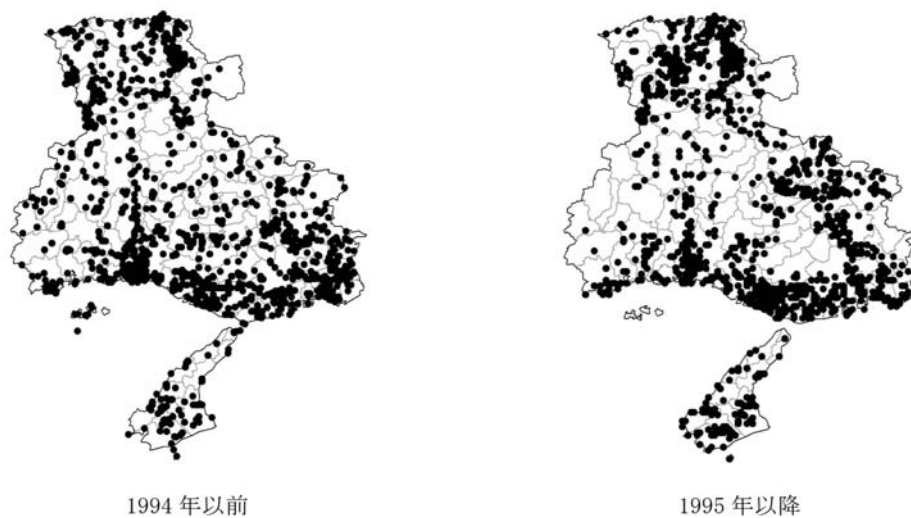


図2 兵庫県内における鳥類生息情報の収集地

繁殖地が極めて限られる種

シロチドリの分布を図3に示す。本種は主に県南部の海岸や河口の砂地を営巣場所としているが、その生息地が臨海工場地帯やレジャー施設等に変わり、近年は、東部海岸の造成中の埋立地でかろうじて営巣している。越冬期は、いくぶん内陸部の河川敷などに入り込む傾向が見られる。

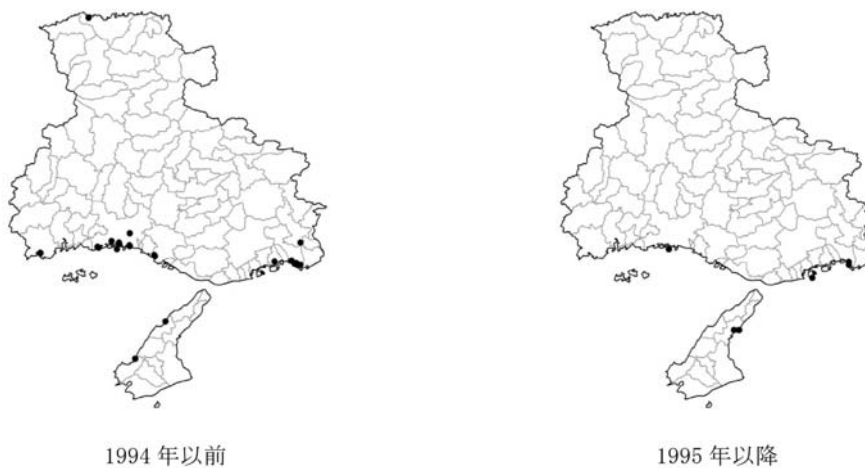


図3 兵庫県における繁殖期のシロチドリの生息分布

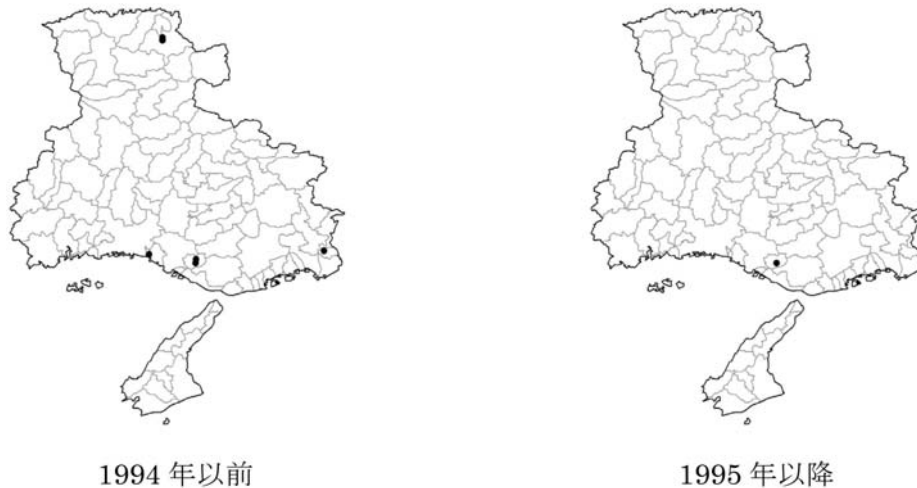


図4 兵庫県における繁殖期のヨシゴイの生息分布

繁殖地が減少している種

ヨシゴイの分布を図4に示す。本種は夏鳥として渡来するが兵庫県では数が少なく、1994年以前は豊岡市、姫路市、加古郡、伊丹市などの数ヶ所で確認されたにすぎない。1995年以降はさらに少なくなり、生息地は播磨東部地域に偏在している。

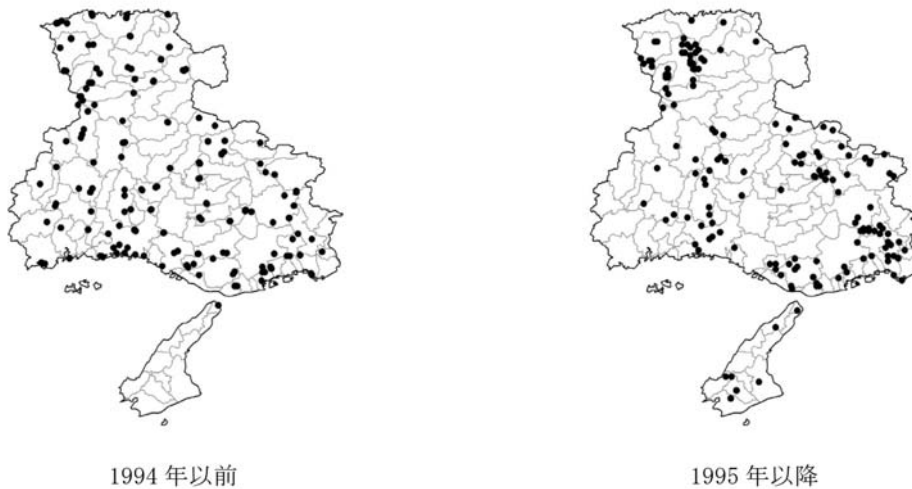


図5 兵庫県における繁殖期のハシプトガラスの生息分布

広く分布する種

ハシプトガラスの分布を図5に示す。本種は留鳥として県内全域に生息するが、特に市街地と山地に多い。繁殖期の分布と越冬期の分布はほとんど変わらない。1995年以降の分布に偏りが見られるが、恐らく1994年以前と同様の分布をしていると考えられる。

増加傾向にある種

キビタキの分布を図6に示す。本種は夏鳥として渡来し、低地から高地の山林に生息する。1994年以前の主な繁殖地は但馬地域や播磨地域、および淡路地域で、例外的に六甲山系であるとされていたが、1995年以降は丹波地域や六甲山系周辺に広がっていることが確認されている。兵庫県では生息域を浅い山林にも広げつつある種と言えよう。



1994 年以前



1995 年以降

図6 兵庫県における繁殖期のキビタキの生息分布



1994 年以前



1995 年以降

図7 兵庫県における繁殖期・越冬期のハッカチョウの生息分布

外来種

ハッカチョウの分布を図7に示す。本種は東南アジアに分布する種で、飼い鳥として県内に持ち込まれたものが逃げ出し、野生化したと考えられている。1982年に姫路市で初めて確認され、次第に東にその生息範囲を広げている。1995年以後、明石市まで帯状に進出し、飛び地的に神戸市から東へ分布している。またスポット的に豊岡市にも出現している。

まとめ

本モノグラフの編集をとおして、個々のもつデータの共有化がいかに大切であるか、あるいは一般のバードウォッチャーの観察記録を蓄積することがいかに重要であるか、ということを目の当たりにできた。今後、本モノグラフが鳥類の保護・保全活動の施策、環境アセスメント、ワイルドライフマネージメントの資料として、あるいは研究者のネタ帳として活用されることを期待したい。

謝 辞

本モノグラフをまとめるにあたり、快く情報を提供して下さった但馬野鳥の会、宝塚野鳥の会、西脇市動植物生態調査研究グループ、日本野鳥の会兵庫県支部の皆様、データ整理に協力して下さった河藤晶子氏、田中葉子氏、梶本恭子氏、新田朋子氏、全面的にご指導くださった江崎保男先生、三橋弘宗先生に心より感謝申し上げます。

参考文献

1. 鳥類同好会：兵庫の鳥、1970、鳥類同好会、神戸市
2. 兵庫野鳥の会：兵庫の鳥、1991、兵庫野鳥の会、神戸市
3. 兵庫県農林水産部林務課：兵庫県の鳥類、1985、兵庫県農林水産部林務課、神戸市
4. 兵庫県農林水産部林務課：兵庫県の鳥類Ⅱ、1995、兵庫県農林水産部林務課、神戸市
5. 江崎保男・和田岳（編）山岸哲（監修）：近畿地区・鳥類レッドデータブック、2002、京都大学学術出版会、京都市